

とがこの発災で判明したため、今回急ぎよ補正で計上し、サーバー室の確保等万全を期すものである。

### 分団本部への無線機の配備について

**問** 今回の震災ではラインが全てストップし、いちばん機能したのは消防無線だった。来年度消防庁舎の新築に合わせて各分団本部に無線機の配備をしてはどうか。

**答** 消防無線については県の消防救急広域化・共同化検討会議でデジタル化を検討中であり、来年には全般調査を終え、県一括で実施設計が始まる予定。今回の要望を踏まえ、協議の方向性を見極めつつ、消防団の会議でも装備等について協議を進めながら最善策を検討し、整備に取り組みたいと考えている。



市民の高まる防災意識の中で行われた防災訓練

### 後期5カ年計画の見直しについて

**問** 今回の補正予算は災害復旧関連のものが殆どであり、被災地への後方支援を含めて、遠野市自体が災害に強いまちづくりを目指さなければならぬと考える。この震災に関わって、市では本年度の予算を更に見直すか聞いているが、後期5カ年計画も見直すのか。

**答** 今回の大震災について、現段階ではまだ未確定部分も多いが、被災地への後方支援という課題も新たに加わり、防災会議でも協議を行っている。防災計画、資機材の備えも含めて、きちんとした防災体制を整えていくため現在作業を行っている。当然ながら予算が伴う以上、後期5カ年計画の見直しは発生するものと考えているが、大きな見直しとならないよう進めたい。

### 震災後の遠野の農業の考え方について

**問** 震災後の遠野農業の誘導対策の考え方を問う。

**答** タフビジョンを着実に進めていくことが基本で、特に野菜生産に力を入れていきたい。また、アストのパワーアップ支援事業等を活用し、生産拡大に結び付けたい。

**問** 今後の支援・交流について、当市は農業地域であり、甚大な被害を被った漁家との交流が、今後の長い年月、歴史を考えると極めて意義があると認識している。沿岸地区では、少ない水田面積ながら、その大部分が塩害等で飯米すら確保できない状況下にある。市内の米づくり地域をそうした沿岸地域と結び、例えば飯米の供給契約を結んで、市内の農家と沿岸の漁家が交流することは、有益な将来交流事業であり、市内の農家に所得をもたらすことに

繋がると思料されるが、今後どのように考えているのかを伺う。

**答** 後方支援のあり方についての意見と受け止めた。

40戸の仮設住宅の建設において、花・家庭菜園を設置し、農業関係者が支援し、栽培をしてもらうことについて検討している。

この話は非常にスケールが大きく、貴重な提案と受け止めた。今後、被災地の状況を調査し、検討していきたい。



この田園風景は遠野の宝物